

# 春野町における民間口承文化財（昔話）の伝承による地域文化の保存継承

静岡文化芸術大学 文化政策学部 二本松康宏ゼミ

指導教員：教授 二本松康宏

参加学生：3年生 青木ひめの 青島萌果 小川日南 川嶋結麻 米川沙弥 松井佐織  
4年生 亀本梨央 川口璃穂 柴田俊輔（4年生はサポート参加）

## 1. 要約

- (1) 浜松市天竜区春野町において民間口承文化財（昔話）を採録し、その記録と保存、公開と継承を目指す。地域に伝わる伝説や家庭に受け継がれた昔話は、その土地に生きた人々の心と記憶の遺産である。しかし、近年の加速度的な高齢化と過疎化によってそうした伝承は急速に消え去ろうとしている。その記録と保存、公開と継承は、地域アイデンティティの再生と文化財保護の観点において緊急の課題である。伝承文学ゼミでは、これまで同区水窪町、龍山町において民間口承文化財の採録調査を実施してきた。そうした実績を継承し、平成30年度からは春野町において同様の採録調査に取り組んでいる。それらの成果はすべて年度ごとに書籍として刊行し、日本昔話学会等においても高い評価を受けてきた。



- (2) 春野町における調査の3年目にあたる令和2年度は気田地区（川上、杉、宮川、気田、豊岡、石切）を対象地として採録に取り組む予定であった。ところが、新型コロナウイルスの感染拡大が始まり、採録調査にも相当の支障が見込まれるようになった。本活動では高齢者との緊密な接触は避けがたく、とくに集会所における集団採録が不可欠である。したがって新型コロナウイルスの影響下での実施は困難と言わざるを得ない。そこで本年度は調査対象地域を川上、杉に限定し（当初予定の30%程度）、現地への訪問が可能になる時期を待って、個別訪問による集中的かつ機動的な採録を目指すことにした。（本助成申請時）
- (3) しかし、新型コロナウイルスの影響は本助成の申請時における想定を超えて長期化し、前半期（4月～9月）には調査活動がまったくできない状況が続いた。そこで、10月以降は調査の対象をさらに絞り込み、テーマも「災害伝承」に限定することとした。テーマそのものの変更ではなく、あくまでも当初計画内での減量的な調整である。

## 2. 研究の目的

### (1) 昔話の調査と研究の現状

日本各地の山間地域では極端な高齢化と過疎化が進み、かつてのように昔話を語り伝える人々は急激に減少している。それは地域におけるコミュニティとアイデンティティの危機でもある。1970年代から90年代にかけては多くの大学のゼミや研究会によって組織的かつ本格的な昔話の採録調査が展開され、調査報告書の公刊が相次いだ。しかし2000年頃からはそうした調査がきわめて困難になったといわれる。

- ① 「お年寄り」の減少 → 高齢者は増えたが、戦後の高度経済成長を支えて働いてきた人たちは昔ながらの昔話を語るような「おじいちゃん」「おばあちゃん」ではなくなった。
- ② 少子化の影響 → 山間地域では極端な少子化が進み、孫と同居する高齢者が減ったため、高齢者は自分が幼少期に聴いた昔話を自分の孫に語る機会がなくなった。現役の語り手ではなくなった。

## (2) 春野町におけるこれまでの取り組み

昭和60年(1985)には旧春野町教育委員会により『ふるさと春野の伝説』が刊行されている。しかし、同書に掲載された27話はすべて再創作(再話)と標準語化が施されている。口承文化財の記録としての価値・評価は限定的である。

## 3. 研究の内容

### (1) 検討された課題

- ・ 前期(4月~9月)に採録調査が出来ない
- ・ 後期(10月1日~)からゼミが通常どおりに再開したとしても、従来のようなかたちでの集団的な採録調査は困難
- ・ 聴き取りの対象は高齢者
- ・ 聴き取りにはソーシャル・ディスタンスが困難

### (2) 新しい対応策

- ・ 集団的な採録調査は実施せず、個別訪問
- ・ 学生2名を1ユニットとして、ユニット単位で散発的に訪問
- ・ 調査の実施回数を最小限に抑える
- ・ 春野地域から対象を広げる

### (3) 災害伝承

- ・ 災害伝承の採集と解析にテーマを絞る
- ・ 歴史資料には記されていない「心と記憶のハザードマップ」
- ・ 災害伝承を採録・解析し、その復元をめざす

### (4) 採集話と解析の一例



春野町和泉平の新宮池

砂川地区の土砂災害(注意看板)

新宮池を水源とする谷沢の土砂災害と治山事業

「新宮池の大蛇」を語る加藤きみ子さん(春野町和泉平)

(5) 調査の記録

調査日	調査者	調査テーマ
11/15(日)	青木, 青島	池之田の大蛇
	小川, 川嶋	つなん曳の由来 他
11/20(金)	米川	上村の蛇簀入り
11/22(日)	松井	沼元の池野明神
11/23(月)	米川, 松井	上村の蛇簀入り
11/27(金)	川嶋	つなん曳の由来
11/28(土)	青木, 川嶋	たらいに乗った女
12/ 2(水)	小川, 川嶋	新宮池の大蛇 他
12/ 7(月)	青木	たらいに乗った女
12/12(土)	米川, 松井	沼元の池野明神
	青島, 川嶋	池之田の大蛇

12/13(日)	青島, 小川	池之田の大蛇
12/19(土)	青木, 青島	たらいに乗った女
	小川, 川嶋	つなん曳の由来
12/20(日)	小川, 松井	新宮池の大蛇
12/27(日)	米川, 松井	沼元の池野明神
1/ 8(金)	青島, 米川	上村の蛇簀入り
1/ 9(土)	川嶋, 松井	沼元の池野明神
1/16(土)	米川, 松井	たらいに乗った女
1/23(土)	小川, 米川	新宮池の大蛇
1/29(金)	青島, 小川, 川嶋	つなん曳の由来 他
1/30(土)	青木, 米川, 松井	上村の蛇簀入り 他

(6) 令和2年度の報道の記録 (一部)



4. 研究の成果

(1) 当初の計画

春野町気田地区のうち川上と杉において採録調査を実施。採録した昔話は「方言のまま」「語り口調のまま」に翻字・記録する。伝承の解説を書き添え、書籍として刊行する。

(2) 実際の内容とその理由

B (一部修正)

新型コロナウイルスの影響は本助成の申請時における想定を超えて長期化し、前半期(4月~9月)には調査活動がまったくできない状況が続いた。10月以降は調査の対象をさらに絞り込み、テーマも「災害伝承」に限定した。

### (3) 実績・成果と課題

書籍の刊行へ

『北遠の災害伝承 ―語り継がれたハザードマップ―』(仮)

監 修 二本松康宏

編 著 青木ひめの・青島萌果・小川日南・川嶋結麻・米川沙弥・松井佐織

発 行 株式会社三弥井書店

発行日 2021年3月(予定)

定 価 500円+消費税(予定)

### (4) 今後の改善点や対策

令和3年度も春野町における採録調査を予定している。しかし、本年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響による調査の困難も想定しなければならないだろう。とくに高齢者に呼びかけて地域ごとの集会所に集まっていただくという従来型の集団採録は厳しいかもしれない。対象地域を絞り込み、テーマを限定するという本年度の対応方法を検証し、次の調査に活かしたい。

## 5. 地域への提言

- (1) 「あなた方が暮らす土地は昔から災害が起きやすい」などと言われたら、きっと不快に思われる方が多いだろう。だが、私たちが解き明かしたいのは決してそこではない。たとえば、気田川の氾濫によって、犬居には有機質やミネラルを含んだ豊かな水田が広がっていた。北遠でも屈指の肥沃の地である。かつて犬居の人々は気田川の氾濫と向き合いながら、その豊かさを享受してきた。「つなん曳」の由来はその誇りを象徴するものであろう。あるいは水災に打ち勝ったときの記念だったかもしれない。災害伝承は、実は地域の誇りの記憶でもある。
- (2) 民間口承文化財(昔話や伝説)は世代を超えた地域文化の継承のためのコミュニケーション・ツールでもあった。だから私たちはそれを「心と記憶の文化遺産」と位置付けている。地域や家庭に語り継がれた昔話や伝説を暮らしの中の文化として継承して欲しい。たとえば、我々が刊行する書籍を春野町内の犬居小学校や気田小学校、春野中学校での地域学習に取り入れ、地域文化を学ぶための教材にさせていただけるとありがたい。

## 6. 地域からの評価

予定されていた3か年計画の最終年度となり、採録調査の実施に大きな期待をしていましたが、新型コロナウイルスの影響が長期化し、当初予定されていた採録調査の実施が困難になり、資料の作成にご苦労されたと聞いていました。そのような状況の中、テーマを地域に残る災害伝承の採集に絞り、地域に伝承される災害に関する昔話を採録調査及び解析を行ったことは大変意義のあることです。今後も「語りのまま」「方言のまま」にこだわり、地域の文化遺産の保護・保存・継承に期待しています。

(浜松市春野協働センター 副所長 尾畑佳志様)